

かしわ



一年間、ありがとうございました

校長 北村 耕一

今年のNHK大河ドラマ「西郷どん」が始まった3ヶ月が過ぎようとしています。今まで、西郷隆盛については教科書で教わり、上野駅の前に犬を連れた銅像が建っているということしか知りませんでした。

大河ドラマの宣伝が始まった頃、ビジ初誌の「本の紹介」ページで、京セラ・第二電電創業者で日本航空名誉会長の稲盛和夫氏の新刊が目にとまりました。

そこに西郷隆盛が学んだ薩摩藩の「郷中教育（ごじゅうきょういく）」という言葉がありました。郷中教育は、「薩摩藩における伝統的な教育法で、定められた区画に住む子供たちを年齢別に4つのグループに分け、それぞれのグループからリーダーを選出し、リーダーが生活の一切を監督し、責任を負う形をとったもの」だそうです。私はこの「郷中教育」について鹿児島県出身の稲盛和夫氏がどのように思われていたのか知りたくてこの新刊「無私、利他 ～西郷隆盛の教え～」を購入して読んでみました。

稲盛氏は「郷中教育」についての2つの問いに対し、「『才識も大切だが、それ以上に誠の心が大切だ』という西郷の考え方に、その影響力の大きさを感じます」「『郷中教育』で、西郷隆盛の人柄、偉大な功績、その教えについて体系的に学びました。この学びから西郷の教えが、私の考え方に影響を与えました」と答えていました。

二つ目の回答の説明の中で、稲盛氏の母校鹿児島市立西田小学校近くの「自彊学舎」という「郷中教育」の道場施設に「負けるな」「嘘を言うな」「弱

No. 23 平成30年3月23日 校長室の木彫校章

きを苛めるな」という言葉が掲げられていたということを紹介していました。

大河ドラマは「ドラマ」なので脚本されていることも多いと思います。しかし、史実として存在した「郷中教育」の教えから現在の学校教育に通じる必要なものも見えてきます。（鹿児島県を故郷に持つ本校の教職員に尋ねたところ、現在も鹿児島市内では行われているそうです）「嘘を言うな」「弱きを苛めるな」などは、まさに学校・家庭で子どもに教えていることだと思います。

また、本校のような小規模な特別支援学校では（本校も幼稚部・小学部・中学部・高等部の4学部＝グループです）グループ学習の際、「年齢の違う子ども同士が教え合い学び合う為には、相手への思いやりがまず必要ですし、相手の能力を把握しそれに適した伝え方を工夫すること」が必要となってきます。そうしたことを教え、経験させることによって、子どもの「自発性・協調性・考える力」が身につくと思います。

今年度は今日で終了します。今後も大河ドラマにかかわらず様々な場面から本校の教育に通じることを学び、考えながら子どもの指導にあたりたいと思います。一年間、ご協力・ご支援、ありがとうございました。

乳幼児教育相談

今年度を振り返って、次年度に向けて

担当 田中 康次

今年度の乳幼児教育相談は、2歳児・1歳児・0歳児がそれぞれ数名ずつ通ってきています。通うよ

うになるきっかけは様々ですが、確定診断ができる病院からご紹介いただくケースがほとんどです。

保護者の話をよくおききし、医療・福祉・補聴器や人工内耳のメーカーさんとの協力体制でお子さんを支援していくことになります。



ひよこ教室だけでなく聴能学習室・測定室も利用しながら、スタッフと保護者が一緒にお子さんの支援にあたります。2歳児は幼稚部の行事に参加することもありました。

お世話になっている病院の医師やSTの先生が来校してくださることもあります。

次年度もこうした体制の中で乳幼児教育相談を進めていくことになります。

幼稚部

今年度を振り返って、次年度に向けて

岩野 恵美子

4月、今年度は年中1名(あさがお組)ですが、目標「1名だからこそ充実した楽しい1年を過ごす」と決めてスタートしました。

行事「4月春の遠足：衣笠山」「5月子どもの日の会」「6月観音崎灯台」「7月七夕の会」「8月登校日(縁日)」「9月秋の遠足：花の国」「10月お月見の会」「11月かしわ祭：白雪姫」「12月お店屋さんごっこ(マック屋さん)・お楽しみ会(クリスマス)」

「1月マリンパーク」「2月豆まき」「3月ひな祭りの会」において、全て幼児が、幼稚部教員と協力しながら司会・隊長の仕事を担当しました。

特に「かしわ祭：白雪姫」では、教頭先生・乳幼担当教員・事務員さん・用務員さん・言語聴覚士の方々にご協力をいただき、お家でも一生懸命練習に取り組み、当日もみんなで力を合わせて演じることができました。幼児は「とっても嬉しかったなあ」と言って大満足でした。学校における「チームワーク」の大切さが、子どもの成長に大きく繋がることを改めて実感しました。また、保護者のご理解ご協力にも

心より感謝いたします。

来年度は、新入



児3名(たんぼぼ組)、年長1名(すみれ)、計4名で新年度をスタートする予定です。心身の発達における大切な幼児期を、お互いに良い影響を与え合っ

通級指導

今年度を振り返って、次年度に向けて

高田智美

「ことばやきこえの教室」は、新入級生13名を含め、小1から中3までの計49名でスタートしました。(きこえ22名、ことば27名)

「きこえ」では、個別指導の他、小中に分かれての「グループ学習会(自己認識についての学び)」の取り組みが3年目となりました。「難聴を理解して協力してもらうには」、「聞こえにくくてもよりよく生活するために」などのテーマで講師を招いてお話を聴き、みんなで考えたり話し合ったりしました。

また、9月には、「相手に伝えるには」というテーマで「ことば」と「きこえ」合同の保護者懇談会を実施しました。「先輩」から「後輩」の保護者へのアドバイスなど、実りのある懇談会になりました。

来年度も在籍校の先生方・保護者の方々と面談や連絡帳での情報交換を行い、それぞれの子供にあった「ことばやきこえ」の指導を行っていきます。



お知らせ

福島第一原子力発電所の事故が原因で、学校内にあった放射性物質を含んだ土砂を敷地内に埋設していましたが、2月21日(水)に作業が行われ下町浄化センターへの移設が完了しました。

作業後に測定した埋設地の放射線量は、他の場所と同様でしたので、影響はありません。

